

学校情報

鴻巣市立鴻巣中央小学校

児童数	420名
学級数	16学級

学校運営協議会

委員構成

初代校長
 スクールガードリーダー
 元小学校教員
 民生児童委員委員長
 地区連合会長
 地区代表
 PTA相談役
 校長・教頭・教務主任

10名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(0名)

活動の概要

- (1) 児童の登下校安全見守り活動
 児童の登下校安全見守り活動においては、地域の安全ボランティア団体と連携し、ご協力をいただいている。
- (2) 校内の環境整備活動
 校内の環境整備活動においては、PTA運営部・CKJ結の会を中心に協力をお願いしている。
 ※児童の学習支援活動については、PTAを中心に行っている。現在応援団を広げていくべく、検討・調整を進めている。

特徴的な取組・工夫

コロナ5類移行後、校外での地域・保護者との協働活動の取組再開が進んでいる。再開に際しては、取組・活動内容を改めて見直し「持続可能取組の推進」を主眼に進めてきた。

- (1) 校内の環境整備活動
 児童の清掃では十分に手の届かない箇所の清掃にご協力いただいた。本年度も令和4年度より再開している「親子環境整備」を実施し、100名以上の保護者の協力のもと、壁の汚れ落とし、窓ふき、蛍光灯や扇風機等の清掃を行い、1年分のたまった汚れをきれいに落とすことができた。
- (2) 菜園ボランティアさんとの連携
 2年生が5月に生活科の学習で野菜作りを実施した。2年生の児童がミニトマト、オクラ、ピーマン、サツマイモ、キュウリ、大根等を地域の学校応援団（菜園ボランティア）の方々にご指導いただきながら一緒に植えた。
- (3) CKJ結の会
 3校統合に伴い、3地区（中央・笠原・常光）の更なる結束を理念に発足。「笠原のんびり市」「常光納涼祭り」への出店や校内的当て板のデザイン・塗装等、多岐に渡り協力していただいている。



扇風機の清掃の様子



野菜づくりの様子

子供・地域の声

- 【児童】・苗の植え方を教えてもらい、上手に植えられて嬉しかった。
 ・自分たちで植えた野菜はとても美味しかったです。
- 【保護者・地域】
 ・コロナ以降、協働活動が再開し、良かった。今後も積極的に出来得る協力をしていきたい。

成果・効果

- (1) 校内環境整備活動
 ・日頃の清掃活動では手入れができない部分を重点的に清掃することができ、校内隅々まで環境を整備することができた。
- (2) 野菜の苗植え
 ・友達と協力して「つくる」「育てる」「食べる」活動を通して、食料や生命の大切さに気付かせることができた。
 ・地域の方々との交流を図ることで社会性を育てていくことができた。

学校情報

上尾市立上平中学校

生徒数 479名

学級数 14学級

学校運営協議会

委員構成

上尾・伊奈保護司会
元区長
元PTA顧問
元PTA副会長
元青少年育成会長
民生・児童委員
元校長
校長
主幹教諭
教諭

など 12名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 2名(1名)

活動の概要

- (1) あいさつ運動
毎学期の始めに3日間、青少年育成連合会の呼びかけで、学校職員、PTA、母の会、自治会、児童委員・民生委員、保護司等が参加し、あいさつ運動を実施している。
- (2) 上中祭の取組
生徒会およびPTAが中心となり、生徒が主体となつてつくる祭り(上中祭)を元PTAや地域の方々も手伝っていただいで実施している。
- (3) 除草作業の取組
PTAの呼びかけにより、体育祭前に1回、学校運営協議会の呼びかけにより、夏休みの終わりに1回、合計年2回実施している。生徒や教職員、自治会からも多く参加している。
- (4) 書初め講習会の取組
地域の書道教室から、指導者として来校していただき、毎年1学年全クラスの生徒を対象に、書初めの授業を行っている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 上中祭の取組
コロナ禍明けから、生徒会の要望を受け、PTAを中心とした地域の方々や教職員が生徒と共に作り上げる形で開催を続けてきた。午前中は、学校行事として、学習成果の発表や、吹奏楽部等のステージ発表を行い、午後は、自由参加で、生徒企画の模擬店、PTA等による飲食の出店、作品展示等を行っている。小学生や卒業生も来校し、地域の交流の場となっている一方で、教職員の負担も大きく、学校行事としての継続が難しいため、次年度から、地域主体の行事への移行を目指し、生徒会・PTA等と検討の上、地域に実行委員を募集している。
- (2) 書初め講習会の取組
以前は、一部の生徒を対象としていたが、1学年国語科における、書初めの単元の始めに全員を対象に実施することで、楷書だった小学校から、行書を初めて学ぶ段階での専門家による指導を全員に体験させられるようにしている。



上中祭午前の部(上) 午後の部(下)

子供・地域の声

- (1) 学校を通して、地域・家庭との結びつきが強まった。
- (2) 子供と大人が触れ合う機会が増え、世代間の交流を促進することができた。
- (3) 様々な体験活動により、生徒の学習における専門性を高めたり、豊かにすることができた。

成果・効果

- (1) 学校を通して、地域・家庭との結びつきが強まり、生徒が主体性を発揮して活動する体験の場を協働で作ることができた。
- (2) 子供と大人が触れ合う機会が増え、世代間の交流を促進することができた。
- (3) 様々な体験活動により、生徒の学習における専門性を高めたり、豊かにすることができた。

学校情報

戸田市立新曽中学校

生徒数 996名

学級数 29学級

学校運営協議会

委員構成

前PTA会長
PTA会長
前本校校長
民生委員・元PTA会長
学区町会副会長
本市立中央図書館長
主任児童委員
校長
教頭2名
主幹教諭

11名

会議回数

年間4回

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 4名(0名)

活動の概要

- (1) 学校の環境整備の支援(花壇や校庭の整備、備品の修繕等)
学校応援団の方が中心となって、花壇整備、校庭の整備、備品の修繕等を行っている。
- (2) 安全・安心確保の支援(朝の一声運動、入校証の確認、安全パトロールの実施等)
正門と裏門にて生徒と挨拶を交わし、生徒とのふれあいや登校の様子を見守る活動を学校応援団の方に行ってもらっている。不審者対応の一環として行っている学校公開での入校証の確認や月1回程度生徒指導とも関わる夕方の地域巡回・見守り活動を学校応援団としておやじの会の方に実施してもらっている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 花植えボランティア
学校公開(10月)前や卒業式(3月)前に生徒と一緒に活動を実施している。花壇を中心に、色とりどりの花を植えることで、学校公開に来校する保護者や、卒業する生徒・保護者の目を喜ばせるだけでなく、校舎内の雰囲気をも明るくしている。
- (2) 包丁研ぎボランティア
家庭科で使用する包丁を研ぐ活動だけでなく、その後、家庭科部の生徒を対象に包丁研ぎ体験もお願いしている。生徒たちは、家庭でも経験がないようで、興味津々にポイントを聞いていた。
- (3) 校庭整備ボランティア
学校応援コーディネーターが声かけをし、本校おやじの会のメンバーと一緒に校庭整備の活動を実施した。風雨の影響で盛り上がったところを掘り起こし、丁寧に整備することで環境が改善され、部活動ができる範囲が広がった。



花植えボランティア



包丁研ぎボランティア



校庭整備ボランティア

子供・地域の声

- 子供の声
- ・学校応援団の方と一緒に植えた花がきれいに咲いて学校が潤ってうれしい。
 - ・校庭や包丁などを整備してもらって、活動がしやすくなって感謝している。
- 地域の声
- ・子供たちと触れ合うことで元気がもらえる。
 - ・学校の役に立ててうれしい。

成果・効果

- (1) 保護者や地域の方の協力を得ることで、生徒の教育環境が良好な状態で保たれている。
- (2) 活動を通して、生徒と教職員以外の大人とのつながりが生まれるとともに、つながりを通じた応援団の方からの声かけが、参加した生徒や声をかけられた生徒の自己肯定感の育みにつながっている場面も見られた。

学校情報

和光市立新倉小学校

児童数	536名
学級数	21学級

学校運営協議会

委員構成

PTA会長
PTA顧問
公民館長
主任・民生児童委員
地域福祉コーディネーター
市内幼稚園園長
元校長
元市内中学校PTA会長
校長
教頭

など 11名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 2名 (2名)

コーディネーター 1名 (1名)

活動の概要

- (1) 地域との交流体験：越戸川の清掃と川の生き物発見体験や邦楽（お琴）体験、伝統文化体験活動等を地域の方々と協力して取り組んでいる。体験活動を年間指導計画に位置付け、生活科、社会科や総合的な学習の時間において全学年が関わっている。
- (2) 読み聞かせ・環境整備（花壇整備、遊具補修等）：読み聞かせは各学年学期に1～2回、環境整備は年1～2回、学校応援団の方が中心となって、花壇整備、遊具補修等を行っている。
- (3) 安全見守り：民生児童委員や地域の方々が自動車・自転車の交通量の多いところを中心に安全確保に努めている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 人材の確保
幅広い方々に学校応援団に関わっていただくため、その都度メール配信や学校だよりにて情報発信を行っている。
- (2) 学校運営協議会との連携
学校運営協議会において、学校応援団の取組について報告する場を設けている。学校運営協議会での熟議を重ねる中で、委員の当事者意識が向上し、地域の団結力が高まった。
- (3) 地域と連携した伝統文化体験の充実
今年度、地域住民の協力もあって、白子囃子体験（3年）、お琴体験を実施した。お琴体験では、児童は地域への理解や郷土への愛着を深め、リズム感や協調性を育むことにもつながり、礼儀やコミュニケーション力、学びに向かう姿勢が培われた。



越戸川清掃



お琴体験の様子

子供・地域の声

- 子供の声 ・ お琴に触れる機会があってうれしい。
・ 応援団の方々が川のことについて詳しく教えてくれるので楽しく学習できる。
- 地域の声 ・ 普段接しない他学年の子供たちと交流することができ、学校の様子がよくわかった。
・ 知り合いになった子に学校の外であいさつをしてもらえることが生きがいになっている。

成果・効果

- (1) 地域社会との連携強化と学校運営への参画促進
学校が地域に開かれた場所となり、地域全体で子どもたちの教育を支える体制の構築につながった。
- (2) 児童の学習環境の充実と豊かな人間性の育成
地域の方々等のふれあいを通して、人とのつながり、地域とのつながりが深まり、児童の地域に対する関心を高めることができた。生徒指導の面においても、学校だけではなく地域全体で児童を見守っていく体制につながった。

学校情報

新座市立第三中学校

生徒数	767名
学級数	24学級

学校運営協議会

委員構成

PTA会長
元PTA会長 2名
各町内会長 4名
校長

8名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(0名)

活動の概要

- (1) 読み聞かせ活動：各学年毎月1度学校応援団の方が読み聞かせを行っている。
- (2) 朝の声掛け：年間4回生徒の登校時間に合わせて、あいさつ運動もかねて行っている。
- (3) グリーン修繕：年2回、学校応援団が中心となって花壇の整備を行っている。
- (4) 行事ボランティア：体育祭の自転車整備など、学校応援団に依頼して行っている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 人材の確保
保護者の方に呼び掛けて、学校応援団に多く所属してもらっている。年度初めや、終わりに活動内容等を理解してもらうために配信を行ったり、学校だよりに掲載し、地域の方にも呼び掛けている。
また、活動内容を随時ホームページで紹介している。
- (2) 地域の方々の参加
特に読み聞かせは、地域の方々も所属している。学校の様子を知ってもらう良い機会ともなっている。また、生徒の祖父母も参加している。

子供・地域の声

子供の声：毎月の読み聞かせは、次の月はどんな本を読んでもくれるのか楽しみにしている。

自分たちのために活動してくれていることに感謝している。

地域の声：学校に来ることで、学校の様子が分かってとてもよい。また、子供たちが喜んでいる様子を見るのがうれしく思う。

成果・効果

- ・子供たちの教育環境を整えられる。また、地域との関わりを持てることで、地域に支えられていることに実感が持てている。



花壇の整備



読み聞かせ活動



グリーン修繕

学校情報

桶川市立日出谷小学校

児童数	451名
学級数	18学級

学校運営協議会

委員構成

学校応援団コーディネーター
 学校応援団員
 自治会長
 主任児童委員
 交通指導員
 幼稚園園長
 PTA会長
 校長
 教頭
 主幹教諭

10名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(1名)

活動の概要

- (1) 安心・安全の見守り：毎週月曜日の放課後に、校区内の防犯推進委員会を中心としたボランティアが各分担場所で児童の下校の見守りを行っている。
- (2) 図書読み聞かせ・図書整備：毎週月曜日の朝に、本の読み聞かせと図書の修繕や蔵書整備等の活動を行っている。
- (3) 学校環境整備：毎週木曜日の午前中に、校地内の草刈りや樹木の剪定を行っている。
- (4) 学習支援：主に生活科や社会科等での学校周辺の校外学習の引率・見守り、家庭科や生活科等での学習支援を行っている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 児童の興味・関心を高める取組の工夫
 - ・パネルシアターの実施
児童の読書への意欲を高めるために、毎年12月に図書ボランティアがパネルシアターを実施している。低学年を中心に体育館で読み聞かせを行い、児童は大変喜んでいる。児童の読書意欲を効果的に高めている。
- (2) 効果的な学習支援
 - ・2年生の生活科での連携
2年生の生活科の野菜づくりにおいて、学校環境ボランティアと連携している。ジャガイモや大根などの野菜づくりに、学校環境ボランティアが栽培や収穫の助言を児童に直接行い、効果的な学習を展開している。
 - ・5年生の家庭科での連携
児童にとって初めてのミシン学習となるため、多くの支援の手が必要となるが、学習支援ボランティアの方々の支援により、効果的に学習を展開することができている。
- (3) 感謝の気持ちを伝える機会の工夫
 - ・ありがとう集会の実施
日頃からお世話になっているボランティアの方々に感謝の気持ちを伝えるために児童集会を実施している。児童に感謝の気持ちを持つ大切さや地域とのつながりを実感させている。



パネルシアター



野菜づくり

子供・地域の声

- 子供の声 ・学校環境ボランティアの方々のおかげで、大きな野菜を収穫できてとてもうれしいです。
 ・学校で学習や生活をするにあたり、たくさんの人に支えられていることを改めて知りました。感謝しています。
- 地域の声 ・学校で子供たちと触れ合うことで、子供たちからたくさんの元気がもらえてうれしいです。
 ・ありがとう集会で感謝の気持ちを伝えてもらったことがうれしかったです。やりがいを感じます。

成果・効果

- (1) 学校、家庭、地域が一体となって、様々な場面で子供たちを見守り、また、環境を整えることで、子供たちの健全な成長につなげることができた。
- (2) ボランティアの方々の姿勢が児童の読書や学習の意欲の向上、心や体の安心安全につながり、豊かな心の育成や学力の定着に大いに役に立った。

学校情報

北本市立中丸小学校

児童数	381名
学級数	14学級

学校運営協議会

委員構成

PTA会長
コミュニティ協議会委員
ふれあい推進長
主任児童委員
幼稚園園長
学校応援コーディネーター
県立学校長
中学校教頭

など 9名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 2名(2名)

活動の概要

- (1) 安全見守り：PTAとパトロール隊が協働して、子供の登下校の見守りや通学路の点検をしている。また、校門付近で子供たちと元気にあいさつを交わしたりしている。
- (2) 体験活動への協力：学校運営協議会委員の方の水田を借りて、田植えから収穫まで体験活動を行っている。5年生の総合的な学習の時間の年間指導計画に「食から健康を考えよう」として位置付けている。
- (3) 環境整備（樹木の剪定、花壇整備、草刈り等）：年に数回、学校応援団の方が中心となって、樹木の剪定や草刈り、落ち葉掃き等を行っている。

特徴的な取組・工夫

(1) 学校運営協議会との連携

学校運営協議会において、学校応援団の取組について報告する場を設けている。学校運営協議会での授業参観や校内安全点検を行い、様々な視点を基に学校運営の改善を行っている。

(2) 小・高交流事業（KISEPまなびあい）

本校児童と高校生（北本高校の生徒）が、小学校の授業等において相互に交流を深めている。小学生においては、学習や活動に対する興味・関心・意欲等を高め、高校生においては、社会参加意識やボランティア意識の高揚を図っている。

(3) 米作り体験と食育

本校に隣接する水田を学校応援団のご厚意によりお借りして苗の植え付けから稲刈りまでの一連を体験している。収穫したお米は調理実習や給食で児童らがいただいている。



小・高交流事業
KISEPまなびあい



米作り体験

子供・地域の声

- 子供の声・自分たちで育てたお米はいつもよりおいしく感じた。農業への興味が高まった。（米作り体験）
・高校生が、算数を丁寧に教えてくれたり、一緒に遊んでくれたりしてうれしかった。（KISEPまなびあい）
- 地域の声・活動報告から学校が子供たちのために様々な工夫や配慮をしてくれていると改めて認識した。（CS委員）
・児童とのふれあいを通して、教育関係の仕事に就きたいと思った。（KISEPまなびあい）

成果・効果

(1) 地域社会との連携強化と学校運営への参画促進

学校が地域に開かれた場所となり、地域全体で子供たちの教育を支える体制の構築につながった。

(2) 学校の教育活動の活性化

地域の教育的な資源を活用し、教科指導に活かしたり、体験活動が充実してきたりしている。

学校情報

伊奈町立小室小学校

児童数	510名
学級数	21学級

学校運営協議会

委員構成

自主防犯会 会長

区長

学校応援団代表

会社役員

子ども会関係者

連携中学校関係者

PTA会長

PTA顧問

校長

教頭

教務主任

など 13名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名 (1名)

活動の概要

- (1) 環境整備（樹木の剪定、花壇整備、草刈り等）：毎年運動会前に、学校応援団とPTAの方が中心となって、樹木の剪定や花壇整備、草刈り等を行っている。また、日々、学校応援団の方々が、草刈りや花壇整備、落ち葉掃き等を行っている。
- (2) 野菜の栽培体験：野菜の栽培を学校応援団の農家と協力して取り組んでいる。「こむろ農園」と呼ばれ、学校応援団の方々の協力のもと、1～4年生の子供たちが植え付けと収穫を行っている。

特徴的な取組・工夫

(1) 人材の確保

より多くの方々に学校応援団に関わっていただくため、年度当初に学校応援団の活動内容についての冊子を各家庭に配布し、学校応援団コーディネーターを経由したメールでのやり取りによって、気軽に活動に参加できるようにしている。

(2) 学校運営協議会との連携

学校運営協議会において、学校応援団の取組について報告する場を設けている。学校運営協議会での熟議を重ねる中で、委員の当事者意識が向上している。

(3) こむろ農園による食育の充実

毎年、こむろ農園において1年生は大根、2年生と特別支援学級はさつまいも、3年生はじゃがいも、4年生はブロッコリーを育てている。子供たちは、植え付け時には小さかった種や苗が、大きく育つことに驚きと喜びを感じている。また、大根については、町立小・中学校の学校給食にも活用されている。



上段：環境整備の様子

下段：こむろ農園での栽培体験の様子

子供・地域の声

子供の声・自分で植えた種や苗がこんなにも大きく育ち、収穫できることがとてもうれしい。

・一緒に花壇の整備ができて楽しい。応援団の方々が私たちを支えてくれていることに感謝したい。

地域の声・子供たちと触れ合うことで元気をもらっている。

・知り合いになった子に学校の外で声をかけてもらえることがとてもうれしい。

成果・効果

(1) 地域社会との連携強化と学校運営への参画促進

学校が地域に開かれた場所となり、地域全体で子供たちの教育を支える体制の構築につながった。

(2) 児童の学習環境の充実と豊かな人間性の育成

こむろ農園の取組は、自然体験を通じた食育への意識を高め、環境整備は、子供たちにとってのよりよい学習環境、生活環境を提供することになっている。

学校情報

所沢市立椿峰小学校

児童数	355名
学級数	15学級

学校運営協議会

委員構成

PTA会長
 地域学校協働活動推進員
 民生委員・児童委員協議会会員
 校区内自治会会長（2人）
 学校応援団団長
 校区内中学校校長
 校長
 教頭
 教務主任

10名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

活動の概要

- (1) 読み聞かせ(どんぐり)：年15回(月曜日朝)に保護者や読み聞かせボランティアによる読み聞かせ活動を行っている。
- (2) 図書工作：図書室の掲示・装飾活動。
- (3) 図書整理：図書室の本の整理整頓、児童の返却本の整理、本の修繕を実施。
- (4) 学習支援：5・6年のミシンの授業、3年生の書きぞめ準備、片付け補助を行う。
- (5) カメリアコース：校内音楽会にて合唱発表、地域行事への参加。
- (6) 校内掲示：季節に合わせた掲示物を作成。
- (7) 子ども見守り隊、見守りさんぽ隊：登下校時に児童の登下校コースで安全指導を実施。
- (8) お花組：校地内の花壇、プランター等の花の手入れ。
- (9) おやじの会(父ちゃん's)：PTA主催で、各行事の運営・お手伝いを行う。

特徴的な取組・工夫

- ・図書工作の活動で季節と国語の教科書の内容にあった掲示物となり、児童の学習意欲の向上につながっている。
- ・おやじの会(父ちゃん's)の活動ではPTA主催の学校宿泊行事(学校de野宿)での運営、児童の見守り水鉄砲大会(カラフルウォーターシューティング)の運営、児童の帰属意識が高まった。
- ・見守りさんぽ隊の活動普及のため、地域自治会と地域公民館の協力を得て、チラシの掲示と回覧を実施。



図書室の掲示物



見守りさんぽ隊のチラシ

子供・地域の声

- 子どもの声 ・図書室の掲示物が教科書の内容だったので、とても嬉しかった。
 ・見守りさんぽ隊さんがあたたかく見守ってくれるので、安心です。
- 地域の声 ・学校応援団の活動が活発で、学校に活気がある。

成果・効果

- (1) 子ども見守り隊の活発な活動でスクールゾーンでの違反車両への注意が行えている。
- (2) 見守りさんぽ隊の加入において、トコトコ健康マイレージ、コバトンALKOOマイレージの参加促進にもつながった。
- (3) おやじの会(父ちゃん's)の会員による自主的な登校指導の実施。
- (4) 夏休み前の水鉄砲大会(カラフルウォーターシューティング)で、2学期に向けた意識付けとなった。

学校情報

飯能市立南高麗小学校

児童数	85名
学級数	7学級

学校運営協議会

委員構成

青少年健全育成の会会長
 南高麗地区行政センター所長
 南高麗地区民生委員児童委員
 自治会長
 南高麗小学校PTA副会長
 南高麗中学校PTA副会長
 南高麗小学校 校長
 南高麗中学校 校長

など 11名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 2名(2名)

活動の概要

- (1) 登下校の見守り
毎日、登下校時に、危険箇所での交通指導や見守りをやっている。
- (2) ボランティア活動
 - ①環境整備作業ボランティア
環境整備作業のときに、校庭を中心に児童との共同作業を行っている。
 - ②園芸ボランティア
畑に野菜を植えるときや収穫のときの児童への補助を行っている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 学校運営協議会との連携
地域の協力を得るために、学校運営協議会と連絡を取り、協力を得るようにしている。
- (2) 地区行政センターとの連携
教育活動に協力してくれる方を紹介していただき、協力を得るようにしている。
- (3) 自治会長会議に参加
校長が自治会長会議に参加し、教育活動のアナウンスをして情報発信をしている。



登下校の見守り



園芸ボランティア

子供・地域の声

子どもの声

地域の方や見守り隊の方が挨拶をしてくれるので安心する。

地域の声

子どものために、頑張っていきたい。

成果・効果

- (1) 学校運営協議会と地区行政センターと連携をすることで、学校と地域の方々との繋がりが強まった。
- (2) 畑の野菜の収穫では、植える時期や手入れのアドバイスをいただき、児童の体験活動が充実した。

学校情報

東松山市立唐子小学校

児童数	254名
学級数	13学級

学校運営協議会

委員構成

PTA会長
 民生児童委員
 学校応援団ボランティア
 活動センター所長
 郵便局長
 まちづくり協議会元顧問
 スクールガードリーダー
 校長
 教頭
 教務主任

10名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 3名(2名)

活動の概要

- (1) 環境整備（花壇整備、草刈り等）：年に2回、花壇整備や草刈り等を行っている。
- (2) 安全見守り：学区内の交差点等で朝と下校時に行っている。自動車・自転車の交通量の多いところに配置し、安全確保に努めている。
- (3) 読み聞かせ：4・5学年を対象に、地域の文化資源である『天の園』の読み聞かせを行い、地域の民俗に触れる場を設けている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 学習の下地づくり
5学年の「総合的な学習の時間」では、地域の文化資源である『天の園』をもとに、地域の歴史や文化について理解を深める学習をしている。学校応援団による、『天の園』の読み聞かせを、4学年から始めることで、5学年の学習の下地を作ることができる。
- (2) ゲストティーチャーとしての活用
読み聞かせを担当する応援団とは別に、『天の園』に登場する場所や文化財、当時の資料について説明する応援団の方々があり、実地調査を含めて児童が学習を深めることができる。校内に天の園の資料館を有しており、児童が学習を進めるための環境が整っている。
- (3) キャリア教育へのつながり
6学年では「総合的な学習の時間」において、『将来の自分に夢をもとう』というテーマのもとキャリア教育を進めている。その中で、『天の園』の主人公の進学について学校応援団の方に説明していただき、現在と比較することで、『天の園』の時代と現代の違いや『天の園』という言葉の意味について知る活動を行っている。



学習の様子

子供・地域の声

子供の声：登下校で何気なく目にする石碑や場所が、作品になっていることにびっくりした。作品の主人公だけでなく、児童にとっても唐子小が天の園であることを再認識していた。卒業に向けた気持ちが高まった。
 地域の声：地域の子供が地域の文化に触れてくれるのは、とてもうれしい。

成果・効果

- (1) 地域との連携強化
地域人材の活用により、地域の方々の学校参画を推進することができた。
- (2) 地域理解と学習の深まり
地域の文化財への理解について、座学だけでなく、体験を通して深い学びにつなげることができた。

学校情報

狭山市立中央中学校

生徒数 482名

学級数 15学級

学校運営協議会

委員構成

元PTA会長
 元くすの樹会（おやじの会）会長
 民生児童委員
 主任児童委員
 自治会長
 博物館館長（元校長）
 地域学校協働活動推進員
 地区センター所長

など 9名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名（1名）

活動の概要

- (1) 学習支援：数学の授業に学級支援ボランティアとして地域の方に入っただき、解答の丸付けや個別指導を行っている。
- (2) 学校行事との連携：PTAバザーの販売ブースに学校運営協議会委員が参加し保護者や生徒と交流したり、進路学習や交通安全指導に講師として参加した。
- (3) 地域の環境整備：学校周辺の環境整備に学校運営協議会委員と生徒と合同でひまわりの種まきなどの作業を行った。

特徴的な取組・工夫

- (1) ひまわり種まきの実施
 例年本校に隣接する土地に、夏になるとひまわり、秋にはコスモスの種を蒔いていただいております。教室から見ると一面がひまわりやコスモスの花が咲き、生徒の心を豊かにしてくれています。一昨年度より学校運営協議会の中で、地権者の方からぜひ生徒も一緒に種まきに参加してほしいと提案があり、学校運営協議会委員と共に生徒も参加した。毎年多くの生徒が参加し種まきを実施している。
- (2) 土曜学校公開日でのさまざまな連携
 11月の土曜学校公開に合わせて、例年様々な取り組みを行っている。1年生では進路学習として「ハローワーク中央」を実施し、様々な職業の方を招き、職業について学ぶ機会を作っているが、今年は学校運営協議会委員にもご協力いただき、講義を行っていただいた。また、同日に行ったバザーでは、くすの樹会（おやじの会）の協力のもと、様々な販売ブースが設置され、学校運営協議委員も販売員として参加した。



協力して種まきをしたひまわり



バザーでの様子

子供・地域の声

- 子供の声・自分たちで種をまいたひまわりがきれいに咲いて、地域の人が写真を撮っていたりしていると嬉しい。
- ・さまざまなことに応援団の方々が関わってくれてありがたい。
- 地域の声・子どもたちから元気なお礼の言葉をもらえて、とてもうれしい。
- ・自分たちの活動が子供たちの成長につながることで、とてもやりがいを感じている。

成果・効果

- (1) 子どもたちの成長と学習意欲の向上
 授業支援や体験活動の充実により、理解度が高まり、学ぶ意欲や社会性、自己肯定感の向上につながっている。
- (2) 学校と地域の連携強化による教育力の向上
 地域人材の活用により教育活動が充実し、教職員の負担軽減と、学校全体の教育力の向上が実現している。

学校情報

富士見特別支援学校

児童・生徒数	91名
学級数	20学級

学校運営協議会

委員構成

未設置

会議回数

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

未配置

活動の概要

- (1) 高等部作業学習の準備作業・仕上げ作業の補助：月に1回、学校応援団の方が中心となって、陶芸や手工芸の製品づくりの補助を行っている。
- (2) 環境整備：年に1回、PTAと合同で卒業式にむけて校内の清掃作業の手伝いを行っている。
- (3) 写真撮影：年に8回程度、学校応援団に登録しているカメラマンが、運動会や体育祭、文化祭、式典など行事の写真撮影をしている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 活動の頻度・内容
学校応援団が形骸化しないように、月に1回程度と頻度を決めて活動を実施した。毎月続けることで、参加者人数が安定してきている。高等部の作業班で、作業活動の準備や仕上げ作業が恒常的に教員の負担となっていたので、応援団にその作業をお手伝いいただいた。
- (2) 活動の連絡
年度初めに年間の予定を配付するのとは別に、登録している応援団へ活動場所や活動内容、持ち物について、活動日の前週にメールを使って連絡を行った。
- (3) 参加者の把握
活動内容のメールにアンケートを添付して出欠の集約を行っている。パソコンで管理をすることで、画面を開くだけで、その日の出席者を把握することができ、運営の省エネ化につながっている。参加者からも、メール上のアンケートなので、出欠を遠慮せずに連絡しやすいという感想があった。



活動の様子

子供・地域の声

子供の声 ・学校応援団の方が、仕上げや準備を手伝ってくれて嬉しい。

- ・応援団の方々が下準備をしてくれるので助かる。

地域の声 ・子供たちの製品づくりにかかわることで、元気をもらっている。

- ・楽しく参加している。月に一回、学校に行って活動をすることが、趣味のようになってきている。

成果・効果

応援団の活動を通して、製品を見て『子供たちががんばっているんですね。』と子供に思いを馳せる参加者もいた。学校からの要望ではなく、主体的に学校行事へのボランティアに立候補してくれる参加者もいた。学校応援団の活動は地域の方に、学校への興味を喚起していることを感じた。学校が地域にとって身近な場所となり、地域全体で子供たちの教育を支える体制の構築につながっている。

学校情報

坂戸市立片柳小学校

児童数	329名
学級数	15学級

学校運営協議会

委員構成

自治会会長
 本校PTA 会長
 本校ふれあい応援団
 児童センター館長
 県立高等学校 教頭
 民生児童委員
 校長
 教頭

8名

会議回数

年間4回

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 6名(6名)

活動の概要

(1) 地域に根ざした活動(伝統文化)

本校では、1年生を対象に地域の方々を講師に招き、「むかし遊び」を実施している。今年度は、「竹とんぼ」や「けん玉」、「コマ回し」等の講座を設定し、地域の方々や保護者が子どもたちと一緒に遊んだり、指導にあたりしている。

(2) 読み聞かせ(おはなしレインボー)の活動

毎週月曜日の朝、本の読み聞かせをボランティアが行っている。また、1, 2年生を対象に人形劇、紙芝居の形での読み聞かせ(おはなしレインボー)活動を行っている。

特徴的な取組・工夫

(1) 安心・安全について

地域の見守り隊の協力を得て、学校からそれぞれの地域まで、子供たちと一緒に下校している。また、保護者のボランティアが「自分ができるときに、できる時間に、できることを」を合言葉に、登校の見守りを行っている。

(※見守り活動のための、地域安全会議を年1回実施)

(2) 環境整備について

PTAのボランティア活動で、校内の花壇への花植えや除草作業を実施する際、保護者、委員会活動をしている児童と一緒に作業にあっている。

(3) 4～5年生の米作り体験

地域の農家さん、自治会の皆さん、保護者ボランティアの皆さんを交えて、田植え、稲刈りと米作り体験を実施している。収穫したお米は、学校給食として全校児童に振舞われる。



むかし遊び



米作り体験

子供・地域の声

○子供の声

お友達のお母さんや自分の住んでいる地域の方と一緒に活動できるのはとても楽しい。

○地域の声

年配のボランティアさんからは、子供たちとふれあう時間がもてて楽しいとの感想をいただいている。

成果・効果

○成果

地域の方々や保護者が学校支援という形で来校し、学校の様子や子供たちの様子を実際に見ることで、学校理解がより一層深まり、さらなる協力を得られるようになった。

○効果

地域の方々とふれあうことで、地域の方々に子供の名前や顔を覚えてもらえるようになり、子供たちと地域の方々の人間関係が深まり地域との繋がりが強まった。

学校情報

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

児童数	221名
学級数	11学級

学校運営協議会

委員構成

PTA会長
 近隣市民センター長
 支え合い協議会理事
 スクールガード・リーダー
 学校応援団コーディネーター
 学校区自治会長
 近隣企業役員
 校長

など 13名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 2名(2名)

活動の概要

- 環境整備
 - 校地内の緑化活動や除草作業などを学校応援団が中心になって取り組んでいる。
- 通学時の安全見守り
 - 毎朝の登校時に横断歩道などで見守ったり、一緒に歩いたりして子どもたちが安全に登校できるように寄り添っている。
 - 持久走大会時に走路の確保をしている。
- 豊かな体験活動の企画、運営
 - 農作業体験などの地域人材と学校の子どもたちが一緒に活動する機会を設け、実施している。

特徴的な取組・工夫

- 人材確保と周知活動
 - 学校ホームページや保護者向け配信アプリを活用してボランティア募集の案内や活動の報告を広報している。
 - 保護者向け配信アプリに【地域】クラスを作成し、地域の方や学校応援団に登録し、直接案内が届くようにしている。
- 学校行事との連携
 - 持久走大会を近隣企業工場の敷地内をコースに実施した。その際にスクールガードによる走路安全確保だけでなく、地元有志のランニングクラブによる最後尾の伴走、進学先中学校陸上部によるレースの先導を合わせて実施した。
- 農作業イベントの実施
 - 地域人材からの発信で、「菜の花の種取り」「のらぼう菜の植え付け」作業を休み時間に希望児童を募って実施した。

見守り後の
環境整備

植え付け体験

持久走大会

子供・地域の声

- こどもの声 ・中学生が速かった。格好良かった。 ・一緒に走ってもらって頑張れた。【持久走大会】
 ・菜の花の種取りをしたら楽しかった。 ・植え方を教えてもらったのでやりやすかった。【農作業イベント】
- 地域の声 ・子どもと一緒に活動すると元気をもらえる。 ・「ありがとうございます」の声でまた頑張ろうと思える。
 ・みんなで一緒に走っている様子を見ていると感動的だった。【持久走大会の参観者】

成果・効果

- 学校の枠を超えた様々な取組の実現
 - 学校に様々な人材が集まり、協働することで、学校だけでは実現できない取組を実施することができる。
 - 学校の職員や子どもたちだけでは出てこないアイデアが起点となった本校ならではの取組が実現している。
- 地域と子どもたちとの人間関係の円滑化、強化
 - 地域人材が子どもたちとともに活動し、顔見知りになることで地域への帰属意識、周りの大人への親近感の醸成が図られている。

学校情報

義務教育学校
日高市立高麗小中学校

児童・生徒数	278名
学級数	14学級

学校運営協議会

委員構成 12名以内

地域住民（内2名は公募）・保護者、PTA関係者・地域学校協働活動推進員、他当該学校の運営に資する活動を行う者・校長・公民館長事務局として教頭、教務主任

○主な協議内容

- 第1回（4・5月）
 - ・目指す15歳像、学校経営方針の承認、地域学校協働本部体制確認
- 第2回（6・7月）
 - ・地域学校協働本部の運営方法と今後の活動予定について
- 第3・4・5回（9・10・11月）
 - ・地域学校協働活動の実践報告と課題の協議
- 第6・7回（2・3月）
 - ・各地区における地域学校協働活動の紹介と次年度の取組の協議

会議回数

年間平均7回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名（1名）
コーディネーター4名（2名）

活動の概要

高麗地区地域学校協働本部 - KOMA活☆地域学校協働活動を中心に、学校と連携して地域学校協働活動に取り組んでいる。

○環境ボランティア・・・校庭の除草、花壇手入れ、庭木剪定、各種修理、ペンキ塗り等

○学習指導ボランティア・・・生け花体験、高麗自慢、野菜作り、そろばん指導、昆虫採集、硬筆・書初め指導、ひな人形、高麗の歴史、お茶づくり体験

○学習支援ボランティア・・・巾着田探検、まち探検、持久走補助、ミシン補助、調理実習、彫刻刀補助、高麗ふるさと学習

○安全ボランティア・・・スクールガードリーダー、登下校指導、子ども110番の家、ひまわりの家、児童保育

○読書ボランティア・・・図書ボランティア、読み聞かせ

特徴的な取組・工夫

- (1) 日高市各地区に応じた地域学校協働本部組織体制の確立と持続可能な取組
 地域学校協働本部は生涯学習課が主管課となり、推進員設置要綱を定めて学校運営協議会との連携を図るとともに、公民館長が事務局を担う体制を整えている。そして、「学習活動」「環境活動」「安全活動」「地域活動」「応援活動」等の部会を設け、学校の要請に応じて推進員と公民館が協力者を派遣して児童生徒と一緒に取り組む活動を行っている。また、公民館文化祭、地域祭り、体育祭等地域の催しに児童生徒が積極的に参加するなど、学校と地域の双方向のつながりを持つことができている。「できることを、できる人が、できる時にやる」を活動のコンセプトとして取組を進めている。
- (2) 児童生徒のふるさと意識の向上に資する小中一貫教育との連携
 地域課題解決型学習・ふるさと科の導入を各学校で進めている。地域と密接につながり、地域を知り愛着を持つ学習活動を行うため、「ふるさと科内容系統配列一覧表」及び「年間指導計画」を整え、地域人材や環境資源、公用物等を計画的に活用して、ふるさと意識の向上を目指している。また、学校運営協議会委員と児童生徒会役員が学校生活について話し合う機会を設け、子供の声を直に聴くなどして相互理解に役立てる取組を行っている。



学校ファーム 農業体験



ふるさと科 お茶づくり体験

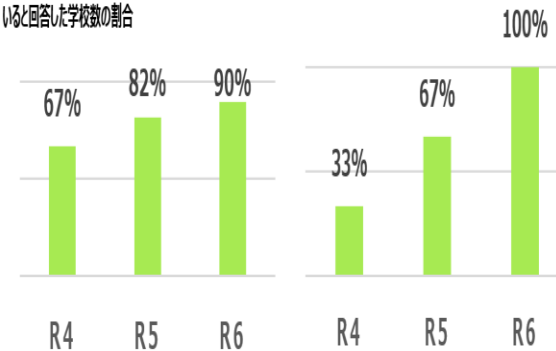
子ども・地域の声

- ・元気な子どもたちと一緒に育てた農作物で、芋煮会をしたことがとても楽しい思い出となりました。（学校応援団農業体験参加者）
- ・お茶を作っている農家の人に教えてもらいながら、自分で手もみをしたお茶をのんで、とてもおいしかった。またやりたい。（3年児童）

成果・効果

- (1) 地域の特長を生かした小中一貫教育の構築
 学校運営協議会で学校・地域の課題について熟議を重ね、地域学校協働本部につなげてその解決を図る活動を通して、地域の力を取り込み、地域の特長を生かした小中一貫教育を構築することができた。また、ふるさと科により地域とのつながりを意識した教育課程を編成することができた。
- (2) 教員の働き方改革と地域で子供を育てる意識の向上
 地域学校協働活動が学校の様々な面で教育活動を支えることにより、教員の働き方改革にも良い影響を与えていると感じている学校が多くなっている。また、地域と学校がパートナー意識を持っているという結果も調査から明らかとなっている。

学校応援団などの活動は、教職員の働き方改革につながっていると回答した学校数の割合



令和6年度「学校応援団」の推進に係る調査結果（埼玉県 日高市）

学校情報

ふじみ野市立上野台小学校

児童・生徒数	794名
学級数	24学級

学校運営協議会

委員構成

保護者

地域住民

学校応援団

など 8名

会議回数

年間平均8回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

コーディネーター1名(1名)

活動の概要

○保護者、地域住民等の力で、学校の教育活動をよりよくし、学校の要望に応じて支援する組織として活動している。

【主な活動】

- ・学習ボランティアとして家庭科のミシンや調理実習の支援をしている。
- ・読み聞かせとして朝の時間に本や紙芝居の読み聞かせをしている。
- ・花壇づくりとして校内の花の植え替えや花壇の除草や水やりをしている。
- ・校外活動見守りとして町探検などの際に子供の安全の見守りをしている。
- ・プログラミング支援としてプログラミングの学習の支援をしている。

特徴的な取組・工夫

【特徴的な取組】

○花いっぱい運動

学校応援団と栽培委員会が中心となり、校内の花壇に季節の花を植えたり、除草や水やりを行ったりし、学校全体を“花いっぱい”にし、子供たちや保護者、地域住民を楽しませている。

○「ひかり祭」等の学校行事支援

学校応援団が学校運営協議会や地域コーディネーターと協働し、保護者、地域住民の有志とともに体験型ブースやイベントを企画、運営して、子供たちの笑顔と地域とのつながりを深める催しづくりをしている。

【工夫】

保護者、地域住民が学校の教育活動を支えるための持続可能な取組にするために、「できる人が、できるときに、できることを」をモットーに掲げている。また、学校を支えるという視点だけでなく、保護者、地域住民が自身の得意や学びを生かすという視点ももち、「子供を育て、大人も育つ」ことを目指して取り組んでいる。



〔学校応援団と栽培委員会児童とで花を植える様子〕



〔ひかり祭でのおやじの会のジャンボチャーハンづくりの様子〕

子供・地域の声

- (1) 子供の声：地域のいろいろな人と一緒にできることが楽しい。
- (2) 地域の声：子供たちが喜んでくれることにやりがいを感じる。

成果・効果

保護者、地域との協働が一層深まり、学校を中心として地域全体の教育力の向上が図られている。

子供たちが、保護者、地域との関わりを楽しんだり、学びを深めたりすることができているという実感が高まっている。

学校情報

三芳町立藤久保中学校

生徒数 297名

学級数 9学級

学校運営協議会

委員構成

現PTA役員 (3名)
 元PTA役員 (2名)
 保護者代表
 民生児童委員
 学校応援団ボランティア
 自治会長 他
 10名

会議回数

年間4回

学校応援コーディネーターの人数
 ()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター2名(1名)

活動の概要

- (1) 環境整備：各学期に1回程度、学校応援団の方が中心となり、樹木の剪定や花壇整備、草刈り、アルミ缶回収等を行っている。
- (2) 学校行事運営補助：体育祭や合唱コンクール等の学校行事の際に、受付や会場整理を中心に学校側の人員では足りない役割を担っている。
- (3) 安全見守り：定期テスト(中間・期末)実施日の放課後に行っている。学校が学区内からかなり外れた位置にあり、細く交通量の多い道路を中心に人員を配置し、安全確保に努めている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 活動の見える化(情報発信)…【説明責任と人材の確保】
活動内容について学校だよりやホームページに掲載して周知している。昨年度からホームページをリニューアルし情報発信に力を入れている。
- (2) 校長のひとり言(講演)…【開かれた学校】
年に4回、学校経営方針や、教育に関する時事等、毎回違ったテーマで保護者や学校応援団、学校運営協議会の方々を中心に希望制で参加者を募り、学校に対する理解や協力を得る。
- (3) 草刈りや花植え及びアルミ缶回収(環境整備)…【生徒の心の醸成】
本校は校庭の雑草が多く、体育の授業や部活動に支障をきたしている。地域住民の協力によって、生徒では賅えない部分まで整備されている。また、学期に1回アルミ缶回収を行い、そこで得た収益を学校に還元している。
- (4) 生徒との関わりの場(交流)…【方針検討への参加】
会議の際に、専門委員会の委員長と直接話し合いの場を設け、現在の委員会活動や今後の展望、地域への働きかけ等について熟議を行った。



←地域の方から
寄贈されたパン
ジーの植え替え



←専門委員長と
の話し合い

子供・地域の声

- 子供の声・環境を整えていただき、授業や部活動に集中して取り組むことができる。
- ・応援団の方々が私たちを支えてくれていることに感謝したい。
- 地域の声・校長先生の話聞くことが毎回楽しみ。
- ・生徒たちから直接話を聞き、考えを知る機会をもらえて嬉しい。

成果・効果

- ・学校応援団の方々の協力で、花植えや落ち葉掃き、除草作業を通し、学校の環境が整備された。
- ・学校応援団やPTAによるアルミ缶回収では、教職員も協力し共に活動した。収益金で環境整備の消耗品を購入させてもらった。
- ・今年度も生徒の登下校中のマナーについて、地域の方からご意見が寄せられることがあった。その都度生徒たちには指導をしているが、本校の課題である。そこで教職員の登下校指導を強化するとともに、学校応援団の方々に学校外での生徒の様子について、見守っていただき、登下校について気づいたことがあったら、いつでも学校と連携がとれる体制を整えている。

学校情報

毛呂山町立毛呂山小学校

児童数	319名
学級数	15学級

学校運営協議会

委員構成

地域学校協働活動推進員
毛呂山中学校区内 PTA会長 (3名)
毛呂山中学校区内 校長 (3名)
学区内児童養護施設長
民生児童委員代表
地域防犯ボランティア
学識経験者 (2名)

12名

会議回数

年間 4 回

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

コーディネーター 1名 (1名)

活動の概要

- (1) 環境整備（樹木の剪定、花壇・ビオトープ整備、草刈り・除草、大型ごみ廃棄、親子除草など）：PTAと地域学校協働活動推進員の方が中心となって、地域・学校の協働による学校整備活動を行っている。
- (2) ふるさと体験活動：6年生児童と保護者・地域による「鯉のぼりあげ」、5年生児童と保護者・地域による「2校合同 田植え・稲刈りの体験学習」を同じ中学校区である泉野小学校と一緒にやっている。
- (3) 登下校の安全見守り：生活環境課と生涯学習課と連携し、学区内6か所の交差点等で登下校時刻に行っている。自動車・自転車の交通量の多いところに配置し、安全確保に努めている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 参加者を増やす工夫
幅広い方々に活動に参加していただくため、今年度からは、年度当初に「協働活動の実施日」を、本校の教育活動の概要を集約した「よくわかる毛呂山小学校」に明記して配付した。また、ボランティアの呼びかけも行った。
- (2) 学校運営協議会との連携
学校運営協議会にて、学校応援団の取組を報告する場を設けている。学校運営協議会での熟議を重ねる中で、委員の当事者意識が向上している。
- (3) 地域・保護者・教職員・児童の協働活動
PTA本部を中心に、「みんなでみんなの学校をよくしよう」という方向性を共有し、ふるさと体験活動と学校の環境整備を進めている。具体的には、「鯉のぼりあげ」や「2校合同 田植え・稲刈りの体験学習」、樹木の剪定、花壇やビオトープの整備（修理保全）、草刈り・除草、側溝清掃、大型ごみの解体作業・廃棄、親子除草、運動会のテント設営活動である。学校運営協議会委員がコーディネーターとなり地域と共にある学校づくりを進めている。



◁【ふるさと体験活動】
「鯉のぼりあげ」



◁【ふるさと体験活動】
「2校合同 田植え・稲刈りの体験学習」

子供・地域の声

- 児童の声： ・田植えで暑かったけど泉野小の保護者に優しくしてもらえて嬉しかった。 ・こいのぼりは学校自慢の伝統だ。
保護者の声： ・多くの人と関わって成長できる機会ありがたい。 ・学校に関われる機会が増え先生方と話せたので良かった。
地域の声： ・ボランティアとして学校に関われて嬉しい。 ・地域で子供たちに挨拶してもらえることが増えた。
教職員の声： ・地域の方々が助けてくれて学校がよくなっていくことを実感できた。 ・気持ちよく助けてくれたので感謝している。

成果・効果

- (1) 地域社会との連携による学校教育の充実・促進
「地域と共にある学校づくり」によって、地域全体で子どもたちの教育を支える連携・信頼関係が構築できた。
- (2) 学校の教育環境の充実と児童の豊かな人間性の育成
地域・保護者・教職員・児童の協働活動によって、長年着手できなかった学校の環境整備を進めることができた。また、様々な協働によって多くの方々に支えられられている感謝を実感できる機会になった。

学校情報

小川町立大河小学校

児童数	152名
学級数	8学級

学校運営協議会

委員構成

地域学校協働活動推進員

PTA会長

区長

地域住民

2名

校長

6名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名(0名)

コーディネーター2名(2名)

活動の概要

- ・登下校の安全見守り：学区内複数箇所の交差点や交通量の多い場所で毎日児童生徒を見守り、安全確保に努めている。
- ・地域人材の活用：「おがわ学」の年間指導計画及びテキストをもとに、授業担当教員と「おがわ学」を統括する教務主任が連携し、計画的に授業実践を進めている。地域人材を活用した学習活動を円滑に進めるため、外部ゲストティーチャーとの連絡・調整においては「おがわ学コーディネーター」を活用している。これにより、学校と地域との橋渡しが行われ、安定した授業実践につながっている。
- ・米、野菜の栽培体験：米、野菜の栽培を学校応援団の方々と協力して取り組んでいる。

特徴的な取組・工夫

(1) 教科横断的な「おがわ学」の実践

小川町では、下里地区を中心に有機農業が盛んに行われている。こうした地域特性を生かし、社会科「有機農家の仕事」、総合的な学習の時間「有機で栽培する大豆」、国語科「説明的文章の探究活動として大豆の活用」など、複数教科を横断した学習を展開した。

これらの授業では、地域の有機農家の方々をゲストティーチャーとして招き、体験に基づいた話を聞くことで、学びをより具体的で実感的なものとする事ができた。

(2) 体験的な学びの支援

教科横断的な「おがわ学」の実践においては、小川町の在来種である「青山大豆」の栽培及び収穫体験を行った。収穫した大豆を使って味噌づくり、豆腐づくりを行った。

体験活動では、大豆の根にできる根粒に着目し、根粒菌と植物の共生関係について学ばせるとともに、実が十分に入らなかった要因を考察するなど、農業が直面する課題についても理解を深める事ができた。これにより、単なる体験にとどまらず科学的・社会的視点を取り入れた学びへと発展させる事ができた。



味噌づくり



豆腐づくり

子供・地域の声

子供の声 ・自分たちで育てた大豆で作った味噌がどんな味がするのか楽しみです。

地域の声 ・地域の多様な魅力を体験的に学ぶ子どもたちの姿を見ることができ、ゲストティーチャーとして大きな喜びを感じるとともに、町の将来に希望をもつことができた。

成果・効果

- ・地域社会との連携強化と学校運営への参画促進地域と学校の関係がより密接になり、学校が地域に開かれた場として機能するようになった。これにより、地域住民や関係団体が学校運営に参画し、地域全体で子供たちの教育を支える体制づくりが進化した。
- ・地域の方々がゲストティーチャーとして授業に関わることで、児童が地域課題を「自分事」として捉え、主体的に考える機会を提供することができた。

学校情報

川島町立中山小学校

児童数	201名
学級数	11学級

学校運営協議会

委員構成

前PTA会長
 区長会長
 元中山公民館長
 前中山っ子くらぶ代表
 民生委員
 町民カメラマン
 校長
 学識経験者
 地域学校協働活動推進員

9名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

コーディネーター 1名 (1名)

活動の概要

学校応援団とは別組織として、生涯学習課が中心となり、地域の方の協力を得ながら廃校にて地域学校協働活動を実施している。令和元年から取組を開始し、地域学校協働活動推進員や地域学校協働活動サポーター（コーディネーター）が主体的に運営を行っている。令和5年から開始した学校運営協議会にも参加し、地域の力を学校支援に活かしている。

特徴的な取組・工夫

学校応援団とは別組織として、地域の方の協力を得ながら活動している点が特徴である。廃校になった小学校のうち2校で、月1～4回、土曜日に活動している（活動場所により、開放日が異なる）。子どもからお年寄りまで、すべての方を対象としており、誰でも利用できる居場所を構築している。開放日には、施設の開放やトライ☆ひろば（作品づくり）のほか、講座、イベントを実施していることもある。



←『トライ☆ひろば』で作品作りをする様子



開放された教室で運動をする様子→

子供・地域の声

子供の声・遊べる友達がいっぱいいて、思いっきり遊べて楽しかった。

- ・色々なものを作ることができて楽しい。

地域の声・作品作りを楽しむ皆さんの姿を見て、自分もやりがいを感じた。

- ・気軽に集まることができ、嬉しい。

成果・効果

地域学校協働活動推進員や地域学校協働活動サポーター（コーディネーター）が講師となり講座を行ったり、イベントの企画・運営を行うなど、主体的に地域を盛り上げている。また、講座参加者が別講座の講師となり講座を行うなど、参加者とコミュニケーションを取ることで、次に繋がっている。

学校情報

深谷市立花園小学校

児童数	714名
学級数	27学級

学校運営協議会

委員構成

民生委員・児童委員協議会会長
主任児童委員
更生保護女性会長
元公立高等学校長
元公立小学校長
学校応援コーディネーター
PTA会長
自治会副支会長
公民館長
校長
教頭
主幹教諭

12名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

コーディネーター 1名 (1名)

活動の概要

- (1) 環境整備(花壇の整備、草刈り、さつまいもの栽培等)：月1回、学校応援団の方が中心となって、花壇の整備、草刈り等を行っている。また、生き物委員会との花はなプラン、2年生生活科のさつまいも栽培に携わっている。
- (2) 交通安全見守り：学区内の交差点等で毎朝行っている。自動車・自転車の交通量の多いところに配置し、安全確保に努めている。
- (3) 読み聞かせ：月1回、各教室を回り読み聞かせを行っている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 生き物委員会と学校応援団で行った花はなプラン
毎年2回、生き物委員会と学校応援団が花はなプランで花壇の整備を行う。児童が花のデザイン(配置)を決めた後、学校応援団と生き物委員会の児童が花を植え、育てていく。児童会活動に学校応援団が関わることで、児童と応援団との関係を深められるように工夫した。
- (2) 学校運営協議会との連携
学校運営協議会において、学校応援団の取組や諸課題について報告する場を設けている。学校運営協議会での熟議を重ねる中で、委員の当事者意識が向上している。また、学校運営協議会で決まったことや話題に上がった内容は、「学校運営協議会だより」を通して情報を発信している。
- (3) 生活科のさつまいもの栽培による学習支援
学校応援団の方が関わっていただくことで、苗の選定や植え付け、収穫方法など専門的な知識を教えていただくことで、栽培を成功させることができた。



花はなプランで花壇の整備



さつまいもの栽培

子供・地域の声

子供の声：植え付けや収穫ができ、とても嬉しかった。
：応援団の方が、学習のことを教えていただいたり、登下校の安全を考えていただいたりと感謝している。

地域の声：収穫したさつまいもを給食のメニューとして提供していただき、大変嬉しかった。
：学年が上がるにつれ、あいさつができる児童が多い。また、登校班の班長が進んであいさつをし、下級生の手本となってきている。

成果・効果

- (1) 地域社会との連携強化と学校運営への参画促進
学校が地域に開かれた場所となり、地域全体で子供たちの教育を支える体制の構築につながった。
- (2) 児童の学習環境の充実と豊かな人間性の育成
花はなプラン、さつまいもの栽培・収穫は、自然体験を通じた環境への意識を高め、また、読み聞かせは、読書活動を促進し、子供たちの知識や語彙力を高めることとなり、よりよい学習環境、生活環境を提供することになっている。

学校情報

上里町立賀美小学校

児童数	178名
学級数	8学級

学校運営協議会

委員構成

地域学校協働活動推進員
賀美地区老人会
区長会
児童・民生委員
学校応援団
賀美安心サポートの会
PTA会長
校長

8名

会議回数

年間4回

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(1名)

活動の概要

- (1) 下校見守り隊：地区ごとに交通量の多いところや人目が少ないところ等に配置し、安全確保に努めている。
- (2) 環境整備（草刈り、花壇整備等）：学校の美化の日に、賀美安心サポートの会の方が児童と一緒に草刈りや花壇の整備等を行っている。（5～11月、月1回）
- (3) 読み聞かせ・図書室整備：図書ボランティアの方が読み聞かせの時間に1～3年生に絵本の読み聞かせをしている。また、図書室の本の整備や掲示、町立図書館の団体貸出の準備等を行っている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 地域との連携
今年度、学区内に地域の方が中心となって整備した「金窪神社公園」ができた。総合的な学習の時間で地域について学習した3年生がその公園の看板を作成した。児童が作った看板が地域と学校をつなぐきっかけとなった。
- (2) 体験学習の充実
4年生の総合的な学習の時間では福祉について学習した。車椅子・アイマスク体験では、民生委員を中心とした車椅子・アイマスクボランティアの方が体験のサポートをした。
また、1年生の生活科では「昔遊びの会」を行い、地域の老人クラブの方を中心とした昔遊びボランティアの方と一緒にお手玉や竹とんぼ等の昔遊びを楽しんだ。
- (3) 学校運営協議会との連携
学校運営協議会において、学校応援団の取組について報告する場を設けている。また、学校だよりやホームページで活動について周知している。



4年生 車椅子体験



1年生 昔遊び体験

子供・地域の声

- 子供の声 ・下校見守り隊の方が一緒に帰ってくれてうれしい。
・車椅子体験の時、教えてもらったり、手伝ってもらったりして楽しく体験できた。
- 地域の声 ・子供の下校時に、子供たちと会って話すことで元気になる。
・金窪神社公園の看板が良くてよかった。公園のシンボルができて良かった。

成果・効果

- (1) 地域社会との連携と学校運営への参画促進
学校が地域に開かれた場所となり、地域全体で子供たちの教育を支える体制の構築につながっている。今後も地域の力を十分に生かす体制を整えていく。
- (2) 児童の体験学習の充実と豊かな人間性の育成
下校の見守りや読み聞かせ、車椅子・アイマスク体験、昔遊びの会等で地域の方とふれあう経験は、子供たちの豊かな人間性の育成に役立っている。

学校情報

行田市立忍小学校

児童数	378名
学級数	15学級

学校運営協議会

委員構成

PTA会長（保護者代表）
主任児童委員
学校応援ボランティア
現自治会長
前自治会長
校長・教頭
公民館長
忍中学校長

ほか 12名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(1名)

活動の概要

- (1) 安全の見守り（児童の登下校時における見守りの実施を毎日行っている。）
- (2) 図書館ボランティア（第2図書室において、週2回程度の貸出補助を行っている。）

特徴的な取組・工夫

- (1) 学校運営協議会との連携
学校運営協議会の場において、学校応援団の取組について報告する機会を設けている。また、学校運営協議会においては、参加者全体で熟議を重ね、また、その内容について発表することで共有を図っている。
- (2) 取組の発信等
本校での取組について、学校関係者に限定せず、地域・社会に向けホームページ等を活用することにより情報を発信している。
- (3) 感謝を伝える会（ありがとう集会）の実施
お世話になった関係の方々を学校に招聘し、児童から感謝の気持ちを伝える会を実施している。（感謝の手紙、花の贈呈、歌）



子供・地域の声

子供の声：日頃の感謝の気持ちを伝えられる集会があることが嬉しい。

地域の声：学校から情報を共有してもらえることで、学校や子どもの様子が見えるのでありがたい。

成果・効果

- 第2図書室の整備が読書活動の促進の一助となっている。
- 感謝を伝える会（ありがとう集会）では、35名の方々が出席し、児童も参会者も感動する素敵な内容となった。児童の地域への参画意識の向上に期待している。

学校情報

加須市立花崎北小学校

児童数	227名
学級数	11学級

学校運営協議会

委員構成

学校応援団
ふれあい推進長
民生委員・児童委員
PTA会長
花崎北幼稚園 園長
花崎児童館 館長
交通指導員
鷲宮神社 禰宜
校長

9名

会議回数

年間3回

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 8名(1名)

活動の概要

(1) 学習活動に関わること

- ①本の読み聞かせを年間15回実施し、児童の豊かな心の育成の一助となっている。
- ②4年生の総合的な学習の時間「目指せ!花北防災リーダー」の単元では、地域の防災士と、段ボールベッドや簡易トイレの作成、非常食の喫食など避難所開設の体験を行った。
- ③3年生の図画工作では、「基本的なのごぎりの使い方(縦引きと横引き)」の補助をしていただいた。
- ④5年生の家庭科では、「基本的なミシンの使い方(上糸と下糸のかけ方)」の補助をしていただいた。

(2) 安心・安全に関わること(安心安全応援団)

- 地域の方々を中心に児童の登下校の安全確保にご協力をいただいている。「花崎北小みまもり隊」を組織し、登下校時の交通事故防止や不審者事故防止等に向けて活動していただいている。保護者による登校時の交通当番とともに、「地域から愛される学校」に多大なお力添えをいただいている。

特徴的な取組・工夫

○花崎北小学校「目指せ!花北防災リーダー」の取組について

(1) ねらい

地域の防災士の方々とともに、非常食キットによる炊飯や段ボールベッドの組み立て、地域防災の話を伺う活動を行うことにより、児童が地域の防災活動に対する関心と意識を高め、防災学習のまとめとするものである。

(2) 内容

- ①非常食キットによる炊飯(アルファ米)…グループで2食分を調理
- ②段ボールベッドと簡易トイレの作成組み立て(4グループ)
- ③地域防災についてのお話



子供・地域の声

- (子供の声) ・段ボールベッドを一人で作るのは大変だけれど、地域の人に手伝ってもらいながら、みんなで作ると簡単にできた。学習した「自助・共助」についてよく分かった。
- (地域の声) ・私たち防災士も実践の場として、勉強になった。また、子供たちにとって、地域にこれだけ防災士がいることを知ってもらおうよい機会になった。今後もこのような取組をぜひ継続してほしい。

成果・効果

- (1) 地域人材の効果的な活用
地域の力を有効に活用した学習活動等を行っている。
- (2) 学校運営協議会と地域学校協働活動との連携
学校運営協議会での熟議を通して、ふれあい推進長会議で周知し、地域の教育力の活用や人材発掘など地域を巻き込んだ活動を行うことができた。

学校情報

久喜市立清久小学校

児童数	116名
学級数	8学級

学校運営協議会

委員構成

学識経験者

元PTA会長(2)

区長

民生児童委員

婦人会会長

コミュニティ協議会会長

やろう会会長

校長

教頭

10名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

コーディネーター5名(1名)

活動の概要

- (1) 学習支援ボランティア：はなまる先生として月2、3回の学習補助、5・6年生のミシン学習の補助、月1回の昼休みの本の読み聞かせ、各学年に応じた様々な体験活動（お茶づくり、茶道、座禅、昔遊び、焼き物、弓道、農家見学など）の指導を行っている。
- (2) 環境整備ボランティア：本ボランティアを中心に定期的かつ主体的に年間を通して除草、剪定を行っている。除草については、10月に行う地域との合同運動会に向けて、保護者・地域のボランティアを募り、4～10月の必要な時期に5回程度行っている。
- (3) 安全見守りボランティア：毎日、交通量の多い交差点や危険が想定される通学路に立ったり地区の通学班と一緒に登校したり、状況に応じた安全確保に努めている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 体験活動の充実
清久地区には、たくさんの自然や資源が豊富にある。子供たちが体験できる場がたくさんある。お茶づくりや茶道体験、なし農家見学、清久焼き体験等地域と学校がつながり、地域の力も合わせて子供たちを育てている。
- (2) 地域にある既存の組織を活かした学校応援団活動の充実
本校の学区には、コミュニティ協議会、婦人会、やろう会等さまざまな組織がある。学校運営協議会を様々な組織の代表で構成し、そこを核としながら、学校応援団の運営充実を図っている。
- (3) 地域と連携した一体的な取組の充実
学校応援団活動での地域との連携に加え、各地域組織が主催で行う様々なイベント、また、地域との合同運動会などがあり、そこに子供たちが参加し、地域と一体となって子供たちを育てている。学校応援団とのつながりがある限りにならないようにしている。



茶摘み体験



ミシンボランティア

子供・地域の声

- 子供の声・摘んだお茶（生のお茶）が飲めるお茶になるなんて知らなかった。
・いろいろなことを教えてくれた地域の人に感謝しています。
- 地域の声・子供たちに会うのがいつも楽しみです。こちらが元気をもらっています。
・子供たちの笑顔が好きです。また、来たいです。

成果・効果

- (1) 豊かな体験活動による児童の育成
様々な体験活動は、個性のある児童ひとりひとりの良さや可能性を伸ばす要因となっている。
- (2) 学校と地域での連携による児童の育成
地域全体で児童を育てているため、児童は地域の方々にも人見知りせず、あいさつ等ができ地域が大きな家族のような存在となっている。

学校情報

三郷市立立花小学校

児童数	312名
学級数	14学級

学校運営協議会

委員構成

民生委員
交通指導員
近隣小高連携校校長
PTA会長

など 5名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(1名)

活動の概要

- (1) 安全見守り：登校時や町探検などの校外学習時に、自動車や自転車等の多い交差点に立って、安全確保を行っている。
- (2) 学習補助：ミシンの使用や調理実習、書写等の補助として安全見守りだけでなく、指導の補助に入ることによって指導の充実に取り組んでいる。朝の活動時に読み聞かせを行っている。
- (3) 環境整備：学校応援団が中心となって、樹木の剪定やエアコン清掃、トイレ掃除等を行っている。児童と共に校庭の草刈りを行っている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 読み聞かせ
読み聞かせボランティアぶっくれんどさんに毎週金曜日に来校いただき、児童に読み聞かせを行っている。1～3年生、4～6年生を隔週で回り、様々な本の紹介や読み聞かせを行うことで、児童にとって普段読まないような本との出会いの機会となっている。
1月末には読書ウィークを開催し、パネルシアター（右）などの工夫を凝らした演出がされて、児童を楽しませている。
- (2) 教育環境の整備
教員と児童だけではなかなか行き届かない場所（トイレやエアコン等）の清掃を行っている。
保護者の協力を得て、清掃を行った。保護者が清掃に協力することで、児童にも活動が伝わり、きれいに保とうとする姿が見られている。



パネルシアター



校庭の草取り

子供・地域の声

- 子供の声・いつも楽しい本を紹介してくれて、とても楽しみにしています。
・ぼくたちの学校をきれいにしてくれて、ありがとうございます。
- 地域の声・旗振りをしていたら卒業した親子がお礼を言いに来てくれて、感動しました。
・学校がきれいになって、先生や子供が楽しく過ごしてくれることがうれしい。

成果・効果

- (1) 学校と地域の連携
地域と学校がつながる機会となっている。自然と会話することで、情報交換が行われ、協力体制がつけられている。
- (2) 児童の学習環境の充実と豊かな人間性の育成
地域の方や保護者に参加いただき、児童と関わることで、普段限られた相手としか関わっていない児童にとっては大きな刺激となっており、多くのことを学ぶ機会となっている。

学校情報

蓮田市立蓮田北小学校

児童数	185名
学級数	10学級

学校運営協議会

委員構成

未設置

会議回数

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (0名)

コーディネーター 1名 (0名)

活動の概要

- (1) 環境整備（安全で美しい教育環境づくり）：校地除草、遊具の塗装、施設修繕、農園整備、運動会テントの設営・撤去など、年2回、「学校応援団」が中心となり、教職員や児童だけでは行き届かない細かな整備を機動的に行っている。
- (2) 学習支援（地域の「名人」に学ぶ体験活動）：稲作体験、郷土伝統芸能「式三番（しきさんば）」、昔遊び、読み聞かせなど、地域農家の方々などを講師に招いた授業支援を展開している。これらの体験活動を年間指導計画に位置付け、社会科や生活科、総合的な学習の時間などの授業を通じて、全学年が継続的に取り組んでいる。
- (3) 安全見守り（地域ぐるみで守る登下校の安全）：通学路の主要交差点での立哨指導、校外学習時の引率補助などを実施している。特に交通量の多い危険箇所重点配置し、安全確保に努めている。

特徴的な取組・工夫

- (1) 広報活動による多様な人材の確保
幅広い世代の参画を促すため、学校だよりや公式ホームページ、新入生保護者向けの説明会資料などを活用し、活動内容と意義を積極的に発信している。「無理なく楽しく貢献」することの価値を強調し、様々な世代が参画しやすいアプローチをしている。特定の層に偏らない持続可能な協力体制の構築を目指している。
- (2) 地域の「目」による安全網の構築
学区内には交通量の多い幹線道路や見通しの悪い路地が多く、学校の見届けだけでは、不十分である。保護者や地域住民による「見守りボランティア」の協力を得ることで、単純な登下校の安全確保だけでなく、地域に見守られているという児童の安心感にもつながっている。また、「学校応援団会議」や「地域連絡協議会」を定期開催して対話を重ね、応援団と地域の声を児童の安全確保に生かしている。
- (3) 学校応援団による環境整『美』
年間2回ほど、学校の環境を美しく整える作業を実施している。グラウンドの除草、樹木の剪定、教具の製作、備品の整理など、子どもたちの安全で快適な活動を下支えする取組となっている。



「式三番」出前授業

ありがとう集会で
学校応援団の方々に感謝

子供・地域の声

- 子供の声・本物の名人から学べるので、いつもワクワクする。自分たちの地域のすごさを知ることができた。
- ・学校応援団の方々が、私たちの学習や安全をいつも支えてくれていることに感謝している。
- 地域の声・活動を通じて、子供たちからいつも元気をもらっている。自分たちも若返る。
- ・活動で顔見知りになった子が、学校の外でも元気にあいさつをしてもらえることが励みであり、生きがいになっている。

成果・効果

- (1) 地域社会との連携強化：学校と地域が密に連携することにより、「学校と地域が力を合わせて子供たちを育てる」という共通意識が醸成された。結果として、地域全体で教育を支える体制が構築されている。
- (2) 児童の学習環境の充実と豊かな人間性の育成：専門的な知識を持つ地域の方と触れ合うことで、児童の学びへの関心や郷土愛を高めることとなり、より質の高い学習環境と豊かな生活環境を提供できている。

学校情報

宮代町立百間小学校

児童・生徒数	302名
学級数	14学級

学校運営協議会

委員構成

スクールガードリーダー
前スクールガードリーダー
学校応援団絵本読み語りの
会代表
PTA会長
校長
教頭

など 7名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(1名)

活動の概要

本校は、「進んで学ぶ子、やさしい子、たくましい子」を学校教育目標として掲げ、児童が物事に全力投球で取り組む学校、安心・安全で美しく整えられた学校、家庭や地域社会から信頼される学校の具現化に向け教育活動を進めている。現在、学校応援団の組織を中心として、家庭や地域の皆様の理解や協力をいただきながら、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を実践している。

特徴的な取組・工夫

(1) 学習支援「生活科」

校外学習では、グループ活動に付き添っていただくことができるため、見学範囲が広がり、有意義な学習につなげることができている。また、昔遊びの体験では、地域の方をゲストティーチャーとして招待し、日本の伝承遊びを教わりながら交流することができている。

(2) 図書ボランティア

読書活動推進のために、朝読書の時間に読み聞かせやブックトーク等を実施している。また、本の整理や補修も行ってきており、使いやすい図書室運営をサポートしてくれている。

(3) 登下校安全見守りボランティア

スクールガードリーダーや地区防犯会、PTAが協力し、子供たちの登下校の見守りや通学路の安全点検を実施している。また、登下校の様子や安全上の課題等について、学校、家庭、地域が情報共有する登下校連絡協議会を実施している。



子供・地域の声

子供の声・朝の読み語りやブックトークをきっかけに読書する幅が広がったり、図書室を利用するようになった。

・応援団の方々が私たちの学校生活を様々な場面で支えてくれていることに感謝したい。

地域の声・見守り活動中にあいさつをしてもらえることで元気をもらっている。

・長い間見守っていると子供たちの成長を感じ、大きくなっても触れ合えることが生きがいになっている。

成果・効果

- ・学校応援団と連携することにより教育活動が充実し、児童の主体的な学びを推進することができた。
- ・地域の方の力で教員だけでは行き届かない環境整備や登下校の見守りを行うことで、児童の安全確保ができた。
- ・学校応援団の方々が児童たちと一緒に活動することで、学校での教育活動の理解を深めることに繋がった。